

選挙は終わった 次は憲法

新しい内閣が発足しました。選挙中は争点になることを避けた自民党は、首相以下悲願ともいえる改憲にまい進する意気込みです。私たちも気持ちを新たに、改憲のベースとなる自民党の憲法草案を解剖し、この改憲案の狙いと、それが成立、発効されたら国のあり方がどう変わるかを豊かな想像力を働かせて学び、活動に繋げていきましょう。

異色の本がお目見え

そのテキストになり得る小冊子が最近発行されました。その名も『あたらしい憲法草案のはなし』(2016年6月 太郎次郎社エディタス)え？なんか聞いたような名前。そうです。70代以上の方には見覚えのある『あたらしい憲法のはなし』(1947年文部省が発行した副読本)を模倣し、自民党草案の中身と言いつつ、そしてこの案が通ったら国の姿はこう変わるといふことを述べた本です。



自民党の改憲案は、天皇を元首と戴く、自衛隊は国防軍とする。国民の権利は公益のために制限される、緊急事態の際総理大臣に権力を集中させるなど、国が国民より重んじられる、軍事国家になるおそれがあるなど、公表された2012年以来、国民から多くの反発を受けました。けれども憲法の学習はなかなかとっかかりにくいものですから、皆がみなその改正案の中身を知り、危機感を覚えたというには至っておりません。その点この本は手に取りやすく、やさし

い言葉でわかりやすく書いてあります。

仕掛けを知って読まないとい

ただこの本には仕掛けがありますので読むには注意を要します。それはこの本が、「この草案をつくった人の気持ちになって」書いたという設定で書かれていますので、まず自民党案の良さを吹聴し、現憲法をけなします。占領下に作られた70年以上も前の憲法なんて古いでしょ、憲法で人権を尊重しすぎたから身勝手な人が多いのだ、と言葉巧みに語り掛けます。それゆえ初めて憲法を学ぼうとしている人は「へえ～そうなんだ」「知らなかった」と素直に受け入れてしまうかもしれません。ところがどっこい読み進むと、国を守る軍隊は、政府に反対する人にも銃を向ける、政府に都合の悪い表現活動(例えばデモ)は取り締まれるようになる、君が代は歌わなくてはいけないとくるとおやおやと思ふかもしれない。疑問がわいて考える、それがこの本の狙いのようですが、素直すぎる今の若者がどう反応するか、私は孫にこの本をそのまま渡す気にはなれません。

この本は、いろいろな人とのディスカッションと合わせて読まれるべきと思います。できれば戦前、戦中、戦後の歴史を知る人と一緒に。

こんな本もあります

現憲法や、自民党の改憲推進の動きを知る本はたくさんありますが、この時期お勧めの本を2冊挙げます。

奥平康弘・木村草太 対談集『未完の憲法』

2014年5月 潮出版社

俵 義文著 『日本会議の全貌』

2016年6月 花伝社

<福間 公子(芦屋「九条の会」前代表)>

講演会「今こそ知ろう自民党改憲草案」

日時：10月15日(土) 14時～16時30分

場所：芦屋市市民活動センター

講師：川元志穂さん(弁護士)

参加費：500円 詳細は添付チラシご参照

アベ政治を許さない市民デモ KOBÉ

「戦争法強行採決1年を考える神戸集会」

日時：9月19日(月) 13時30分～16時30分

場所：兵庫県私学会館大ホール(JR元町駅徒歩2分)

講師：岡野八代さん(同志社大学教授)ほか

参加費：1000円 *講演終了後デモあり